

(様式3)

農業研究成果情報

No.415 (平成21年9月) 分類コード02-04

熊本県農林水産部

いぐさ栽培後作キャベツ、ブロッコリーの肥効調節型肥料を用いた施肥量削減

肥効調節型肥料を用い畦内に条施肥を行うことで、いぐさ栽培後の秋作ブロッコリー、秋作キャベツともN成分を50%減肥しても減収しない。また、追肥作業が省略できる。

農業研究センターい業研究所作付体系研究室(担当者:山並篤史)

研究のねらい

本県では、いぐさの不振などからブロッコリーやキャベツの栽培に取り組む農家が増加しているが、いぐさ栽培後の水田における施肥管理技術は明らかとなっておらず、現地では多肥栽培の事例が多い。そこで、ブロッコリーおよびキャベツの施肥量削減を目指し、肥効調節型肥料を用いた施肥技術を明らかにする。

研究成果

1. いぐさ栽培後の秋作ブロッコリーでは、肥効調節型肥料(肥効調節型CDU(中期タイプ):被覆尿素(S60)=25:75)を用い畦内中央に深さ5~7cmで条施肥を行うことで、N成分を50%減肥しても慣行施肥と同等の花蕾重となる(図1、図3)。
2. いぐさ栽培後の秋作キャベツでは、肥効調節型肥料(8月上旬播種は肥効調節型CDU(中期タイプ):被覆尿素(S40)=25:75、9月上旬播種は肥効調節型CDU(中期タイプ):被覆尿素(S30):被覆尿素(S40)=25:15:60)を用い畦内中央に深さ5~7cmで条施肥を行うことで、N成分を50%減肥しても慣行施肥と同等の結球重となる(図2、図3)。

普及上の留意点

1. 肥効調節型肥料は初期の溶出が少ないため、移植前にセルトレイ(128穴)当たりN成分で15gの無期化速度の速い肥効調節型CDU(細粒2タイプ)を施用する。
2. 本試験における減肥区の P_2O_5 、 K_2O は、慣行区と同量となるように苦土重焼燐および硫酸加里を全量基肥として全面散布した。

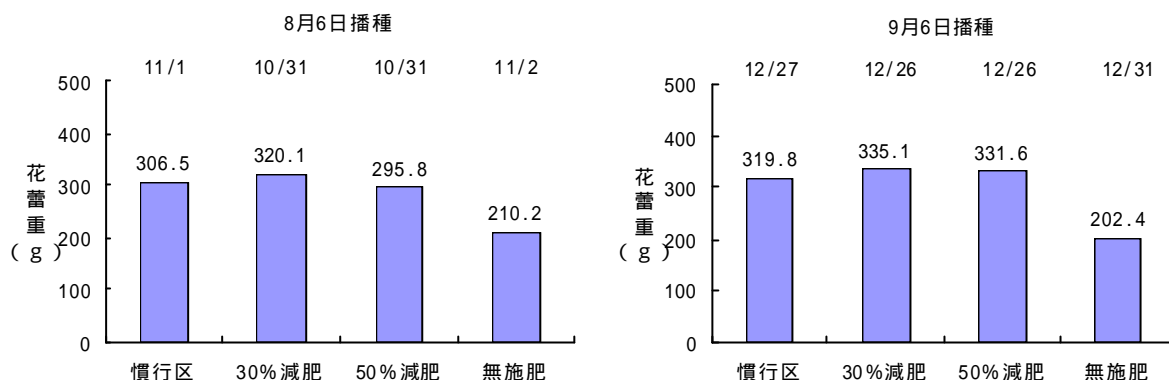


図1 秋作ブロッコリーの花蕾重(平成19年) 品種'ピクセル'
 グラフ上部の日付けは収穫日。栽植様式は畝幅140cm、株間35cm、条間40cmの2条植え。
 慣行区はN:P₂O₅:K₂O=2.7:3.0:2.5kg/aとし、速効性肥料を基肥と追肥に分けて全面施用した。

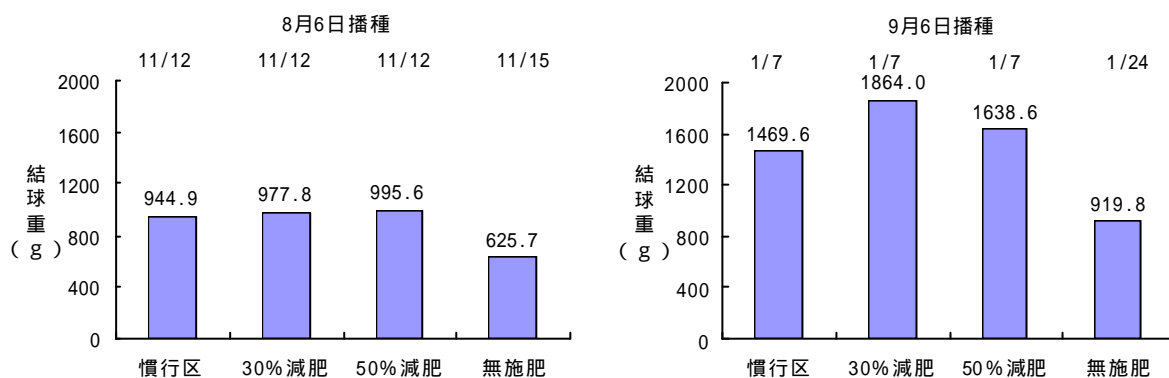


図2 秋作キャベツの結球重(平成19年) 品種'彩ひかり'
 グラフ上部の日付けは収穫日。栽植様式は畝幅140cm、株間35cm、条間40cmの2条植え。
 慣行区はN:P₂O₅:K₂O=2.4:2.0:2.2kg/aとし、速効性肥料を基肥と追肥に分けて全面施用した。

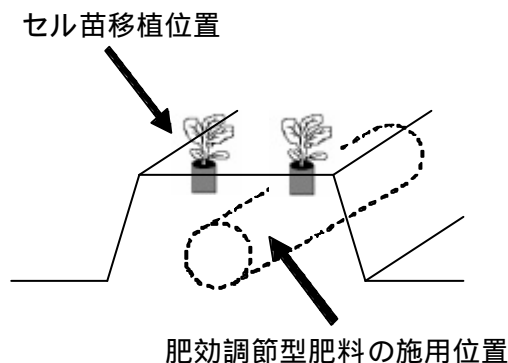


図3 条施肥の方法